

可憐に咲く、
青紫色の花

再生した湿地に ミズアオイ復活！



他のアオイと同じように、ハート型の葉っぱが特徴

ボランティア「上尾水辺守」と市の協働で水辺環境の再生に取り組んでいる上尾丸山公園で、絶滅危惧種ミズアオイの生育が確認された。保全作業で生育環境が改善されたことによって、土に眠っていた種子が発芽したものと見られる。

保全活動の成果：県内でも貴重な絶滅危惧種

園内の水辺でさまざまな取組をしている上尾水辺守は、2020年夏から、菖蒲田の上流部の湿地をよみがえらせる作業を行っている。この湿地は当初、外来植物のキシヨウブが区域全体を覆っていて水面も見えず、泥の堆積が多くて歩くのもままならない状態だった。膝まで泥に埋まりながらキシヨウブの根茎を取り除き、湿地への日照を遮っていた樹木の実生を取り払って、湿地の再生を進めていった。

2021年も、再び生えてきた小さなキシヨウブを抜いたり、泥が堆積して陸化したところを湿地に戻す作業を継続した。そうしたところ、夏に3株のミズアオイが生育しているのが見つかった。ミズアオイは湿地や水田に生育する植物で、埼玉県レッドリストで絶滅危惧ⅠA類に選定されている。県内では現存する生息地が1ヶ所程度しか知られていない。上尾丸山公園の湿地再生活動で本種が出現したことは、全体的に意義がある。

一年草のミズアオイは根茎をもたず、毎年種子から発芽して世代をつないでいく。種子が泥や他の植物の下に埋もれてしまうと発芽することができない本種は、洪水や水田の耕起といった攪乱によって生育環境が保たれている。園内で見つかったミズアオイを保全していくために、継続的に湿地の管理を行っていくことが大切だ。今年の夏には、青紫色の美しい花を多くの来園者に楽しんでほしいと願っている。



湿地を覆っているキシヨウブの除去作業
(2020年7月)



抜き取ったキシヨウブの山 (2020年7月)

旬の一枚

タシギ(田嶋)

湿地や水田、川岸などでひっそり暮らす冬鳥。上尾丸山公園の湿地に渡来し、くちばしを泥に差し込んでミミスや昆虫を食べています。草かげでジッとしていると、模様が枯れヨシにまぎれ、何度も見失いそうになります。



めざせ！大池再生

みずべもり通信

- 研修に行ってきました！ -

ボランティア「上尾水辺守」は、保全活動に必要な知識や技術を高める目的で、毎年スキルアップ研修を行っている。今回は北本自然観察公園を訪問した。
研修メニューは講義と実習の2本立て。室内で埼玉県内、特に荒川流域の自然とその保全について学んだ後、野外実習に取り組んだ。実習現場は、ヘイケボタルなどの生きものの生息地。浅い湿地だったが、2年前の台風で泥が堆積して陸になってしまった。泥を取り除いて、水がひたひたな湿地に戻すのが今回のミッションだ。
スコップやジョレンを駆使し、泥をソリに寄せ、斜面を駆け上がって湿地の外に運び出す上尾水辺守のメンバー。作業はサクサクと進み、溜まっていた泥はすつかりなくなつた。来シーズン、この場所に湿地帯の生きものが戻ってくるかと思うと楽しみだ。
この研修の経験を糧にして、今年も上尾丸山公園の自然再生に取り組んでいきたい。



湿地に堆積した泥を掘る研修生。完全に陸になっている！

大池の自然情報を発信しています！

大池自然再生日記

<https://www.city.ageo.lg.jp/page/046120042001.html>



上尾市 大池

検索

注目のトピックス

散策に便利！ 大池の生きもの紹介看板

上尾丸山公園の水辺で見られる生きものを紹介する看板ができました。その名も「上尾丸山公園水辺情報板」と「水辺の生きものサイン」です。
「上尾丸山公園水辺情報板」は南駐車場そばの池畔にあります。およそ2ヶ月に1回、板面を更新し、旬の生きもの情報をお届けしています。オススメの観察場所も園内マップで紹介しています。

「水辺の生きものサイン」は大池の周りの、橋の欄干などにあります。年に数回更新し、季節ごとにイチオシの水辺の生きものを紹介しています。生きものの写真とともに、特徴や大きさ、観察ポイントを解説しています。

水辺情報板の全景



写真と手書きのコメントで生きものを紹介しています。

大池、池干し中です！



季節ごとに板面が変わります。お楽しみに！



水辺の生きものサイン